

はしがき

私たちは英語を使う際、英語の名詞が数えられる〈可算名詞〉なのか、数えられない〈不可算名詞〉なのか、そして可算名詞の場合は、それを〈単数形〉で用いるべきか、〈複数形〉で用いるべきかなど、常に名詞の〈数〉を意識しなければなりません。英語を学び始めたとき、「靴」のことを普通、shoes（シューズ）と複数形で言うのは、右足と左足の2つがあるからで、片足だけなら単数形で shoe というのを知って、論理的だと思いました。したがって、*a shoes とはもちろん言えませんし、一足の靴を指して「この靴」という場合、*this shoes とは言えず、this pair of shoes と言わなければなりません。それでは、たとえば左足に履く靴だけが1つ、あるいは2つある場合はどのように言うのでしょうか。そうです、a (left-foot) shoe, two (left-foot) shoes と言います。そして、左右そろった2足の靴は、two shoes ではなく、two pairs of shoes となります。

英語には、語末が -s で終わる名詞がたくさんあります。昔、中学校の先生が、「ニュース」というのは、広く東西南北の出来事を集めて報道するから、news という名詞は、north の n, east の e, west の w, south の s をとって news となっているんだ、と言われて、「なるほど、そうか!」と感心しました。でも、これは本当でしょうか。New に複数を表わす -s がついたのではないのでしょうか。「玉突き」のゲームを日本語では「ビリヤード」とも言いますが、英語では常に billiards と複数形で表現します。これには何か理由があるのでしょうか。病名や学問名も measles（はしか）や politics（政治学）のように、-s で終わる名詞が数多くありますが、これには理由があるのでしょうか。

高校では、cattle（家畜）や police は、team, family のような名詞と同じく、個々のメンバーから成る集合体を表わす「集合名詞」だと教えられます。しかし、cattle や police は、team, family が a team/family, two teams/families, many teams/families のように数えられるのに対し、*a cattle/police, *two cattles/polices, *many cattles/polices のようには数えることができません。ところが cattle は、面白いことに、two cattle (cattles ではなく)、many cattle, 500 cattle のように言えますし、much cattle とも言えます。これは一体、なぜでしょうか。Cattle や police を team や family と同じように「集合名詞」と呼ぶのは妥当なのでしょうか。

英語では、主語の名詞の〈数〉に応じて、動詞が〈単数呼応〉か〈複数呼応〉かを選択しなければなりません。その際、一般的には、主語の名詞が〈単数形〉なら動詞は〈単数呼応〉になり、〈複数形〉なら動詞は〈複数呼応〉になりますが、常にそうとは限らないので注意が必要です。主語の名詞が形の上では単数形でも、意味の上では複数のものを表わしていたり、逆に、集合名詞のように、形の上では単数形でも、複数のメンバーからなる集合体を表わす場合は、動詞呼応はどのようになるのでしょうか。たとえば、次のような例では、単数呼応と複数呼応のどちらが用いられるか、お分かりでしょうか。そして、そのような動詞呼応を決定づけている規則は何なのでしょうか。

- (1) This pair of shoes [**is / are**] very expensive.
- (2) More than one student [**has / have**] failed the final exam.
- (3) The audience [**was / were**] asked to vote by raising **their** hands.
- (4) Right now, the Red Sox [**is / are**] losing to the Yankees 6 to 0!
 「今、レッドソックスは、6対0で（ニューヨーク）ヤンキースに負けている。」
- (5) None of these books [**was / were**] interesting.

(3) の audience は、〈形〉の上では〈単数形〉ですが、それを受けける代名詞は raising **their** hands と〈複数形〉です。これはなぜでしょうか。

この本は、上のような英語のさまざまな名詞の〈数〉と〈動詞選択〉に関する問題を解き明かそうとしたものです。英語には、一般に「複数形」で用いられる名詞（たとえば scissors, clothes, the Netherlands）、〈複数〉のメンバーから成る集合体を表わす集合名詞（たとえば team, family, committee）、〈複数形〉のスポーツチーム名、音楽グループ名、会社名（たとえば the Seattle Mariners, the Beatles, United Airlines）、逆に〈単数形〉のスポーツチーム名、音楽グループ名、会社名（たとえば AC Milan, Kiss, Microsoft）、one student after another や none, neither のように、形の上では〈単数〉名詞なのに、意味の上では〈複数〉を表わす名詞など、さまざまな名詞がありますが、このような名詞の〈数〉に関するメカニズムや動詞選択に潜んでいる規則を明らかにしたいと思います。

本書は10章からなり、第1章では、一般に「複数形」で用いられる名詞を取り上げ、それらの名詞の仕組みや区別、動詞選択について考えます。第2章では、形の上では〈単数〉名詞なのに、意味の上では〈複数〉のものを表わしたり、逆に、形の上では〈複数〉名詞なのに、意味の上では〈単数〉のものを表わすような、形と意味のミスマッチを示す名詞（句）について考えます。そして第3、4章では、従来、「集合名詞」と呼ばれてきた名詞について考え、これらの名詞が〈数えられる〉かどうか、これらの名詞が表わす集合体のメンバーをどのように数えるか、という点から考察し、従来とは異なる提案を行ないます。そして第5章では、第3、4章で考察した名詞が主語になる場合、動詞選択がどのようになるか、アメリカ英語とイギリス英語で動詞選択が異なるこ

とやその理由について考えます。また第6章では、スポーツチーム名、音楽グループ名、会社名が主語になる場合の動詞選択について考えます。次に第7章と第8章では、none of us や neither of them のような表現が主語になる場合の動詞選択について考えます。第9章では、Nobody can see themselves directly, can they? (誰も自分を直視できませんね) のような文とその付加疑問文を考えます。ここで、この文の themselves は themselves の誤植だと思われる読者の方が多いかもしれませんが、これは誤植ではなく正しい英語です。この章では、このような文の付加疑問文がどのようになるかという問題に加え、themselves という単語がどのようにして用いられるようになったかを解説します。そして最後に第10章では、人が人をどのように呼ぶか、あるいは呼ぶべきかという、「呼称詞」の問題について考えます。

本書ではさらに、名詞の数と動詞選択との関連で5つのコラムを設けて説明をしました。コラム1では、単数形と複数形が同じ形の可算名詞について、コラム2では、All [is / are] well. のどちらが用いられるかについて解説しました。コラム3では、動物とその肉の名前について、コラム4では、I don't think any of us [wants / want] that. でどちらが用いられるかについて解説し、コラム5では姓の呼び捨てに関して解説しました。参考にしていただければ幸いです。

本書をお読みいただいたあと、その理解確認のための問題があればお役に立つのではないかと思います、巻末に練習問題とその解答を載せました。これも参考にしていただければ幸いです。

この本を書くにあたり、多くの方にお世話になりました。特に Karen Courtenay, Nan Decker のお二人からは、本書の多くの英語表現に関して有益な指摘をたくさんいただきました。また、お二人に加え、Andrew Fitzsimons, Phillip Brown, Rick Piermarini, Alison

Stewart の4氏からは、イギリス英語とアメリカ英語の違いに関して多くの貴重な指摘をいただきました。さらに、くろしお出版の岡野秀夫氏には、本書の原稿を何度も通読していただき、さまざまな有益な助言をいただきました。ここに記して感謝します。

2009年 立秋

著者

目次

はしがき *i*

第1章

一般に「複数形」で用いられる名詞 1

- scissors, glasses に関する問題 1
- 〈2つの切り離せない対称的部分から成る〉1つのもの 2
- 〈2つの別々の(対称的)部分から成る〉1つのもの 7
- 異種の様々なものから構成される集合体 10
- 同種の様々なものから構成される集合体 12
- 〈単数/複数呼応〉、〈可算/不可算名詞〉 13
- 複数の構成要素から成る単一体 17
- -s で終わる「単数形」名詞 19
- politics, physics, statistics, linguistics 等 22
- まとめ 26

コラム① 単数形と複数形が同じ形の可算名詞 29

第2章

〈形〉と〈意味〉のミスマッチ 35

- more than ~ と「~以上」 35
- 〈単数呼応〉か〈複数呼応〉か? 37
- 名詞句の〈主要部〉 38
- more than one student, more students than one
の〈主要部〉はどれか? 39
- 同様の例 42
- A number of students [is / are] coming. はどっち? 47
- 「a bunch/set/group/party of +複数形名詞」の場合は? 48
- 「ひとつのもの」として認識されるかどうか? 50
- まとめ 52

コラム② All *is* well. か All *are* well. か? 54

第3章 「集合名詞」は数えられるか? (1) 61

— team と people の違い —

- peoples は間違いか? 61
- people は集合名詞か、普通名詞か? 62
- a chicken と chicken 64
- team と people はどこが違う? 67
- 仕切りのある集合体かどうか? 69
- cattle, police はどうか? 72
- furniture は? 77
- 家具1つでも furniture と言えるか? 80
- まとめ 81

コラム③ 動物とその肉の名前 83

第4章 「集合名詞」は数えられるか? (2) 91

— 集合体のメンバーをどのように数えるか? —

- 集合体のメンバーはどのように数える? 91
- スポーツチームのメンバーは player 91
- committee, group のメンバーは、英語でも member 93
- audience, family も同じ 94
- staff 96
- crew 99
- cattle と police 102
- まとめ 104

第5章

「集合名詞」と動詞選択 109

— 単数か？ 複数か？ —

- 〈単数呼応〉か〈複数呼応〉か？ 109
- furniture はなぜ〈単数呼応〉か？ 111
- people, cattle, police を主語とする文の動詞呼応 111
- 警察官一人でも police と言えるか？ 113
- cattle の〈単数呼応〉は可能か？ 114
- 集合名詞を主語とする文の動詞呼応 116
- アメリカ英語で staff, crewの複数呼応は可能か？ 120
- イギリス英語で、集合名詞を主語とする文に
単数呼応が現われるケース 122
- まとめ 124

第6章

The Red Sox [is/are] playing tonight. はどちらが正しい？ 127

- スポーツチーム名の動詞選択 127
- スポーツチーム名は〈複数形〉がほとんど 128
- 〈単数形〉のスポーツチーム名 132
- イギリス英語の〈複数呼応〉 134
- The Beatles [is/are] a rock group. はどっち？ 136
- Microsoft [is/are] releasing a new product. 139
- イギリス英語の〈複数呼応〉と〈単数呼応〉 143
- まとめ 146

第7章

None of us [is/are] ready yet. はどちらを使う? 147

- 「none of + 複数(代)名詞」は〈単数呼応〉か〈複数呼応〉か? 147
- 「none of + 複数(代)名詞」は〈複数呼応〉が一般的 150
- グーグルでの用例検索結果から 150
- 〈人〉か〈物〉か、〈現在〉か〈過去〉か? 152
- 〈人・物〉、〈現在・過去〉がどうして〈単数・複数呼応〉に影響を与えるか? 156
- none のみが主語の場合 158
- no one, anyone はどうか? 161
- まとめ 162

第8章

Neither of them [is/are] coming. はどちらを使う? 165

- 「neither of + 複数(代)名詞」は〈単数呼応〉か〈複数呼応〉か? 165
- 「neither of + 複数(代)名詞」の単複呼応 168
- 〈人〉か〈物〉か、〈現在〉か〈過去〉か? 170
- 堅い書き言葉、くだけた話し言葉 172
- まとめ 174

コラム④ I don't think any of us [wants/want] that. はどちらを使う? 177

第9章

Nobody can see themselves directly, can they? 181

- はじめに 181
- 付加疑問文 181
- everyone, everybodyなどを主語とする平叙文に続く付加疑問文 182
- nobody, no studentなどを主語とする文に続く付加疑問文 186
- nothing, no waterなどを主語とする文に続く付加疑問文 188
- Nobody can see themselves directly, can they? 191
- まとめ 195

第10章

人は人をどのように呼ぶか? 197

- 自分の先生を人に紹介するとき 197
- a friend of mine は? 198
- 先生を「呼び捨て」に? 200
- アメリカ東部のある大学での例 201
- ファーストネームから Mr. X 等に代えて言う場合 204
- 代名詞を使うと失礼? 205
- まとめ 208

コラム⑤ 姓の呼び捨て 211

練習問題(およびその解答) 215

付記・参考文献 224

一般に「複数形」で用いられる名詞

第1章

● scissors, glasses に関する問題

まず、次の問題から考えてみましょう。

(1) 次の (A), (B) の英語表現が表わす意味として正しいものを (a) - (c) から選びなさい。

(A) these scissors

- (a) このハサミ
- (b) これら (複数個) のハサミ
- (c) (a), (b) どちらの意味もある

(B) three glasses

- (a) 3つのメガネ
- (b) 3つのグラス、コップ
- (c) 3枚のガラス

2つの問題に迷うことなく答えられましたか。解説は次節で行ないますが、(A) の答えは (c), (B) の答えは (b) です。「ハサミ」は、2枚の切り離せない刃と手で持つ部分からできており、(ほぼ) 対称的な、一緒になった2つの部分からできているので、常に scissors と複数形で用います。原義は「切るもの」(cutting instrument) です。ただ、these scissors という場合、どうして1丁

〈形〉と〈意味〉のミスマッチ

第2章

● more than ～と「～以上」

More than ～という表現を含む次のような文を高校生や大学生に示すと、多くの学生が以下のような日本語訳をします。果たして、これは正しいでしょうか。

- (1) Choose **more than one** out of the following four questions.
「次の4問のうちから1問以上を選びなさい。」
- (2) This dictionary weighs **more than three kilos**.
「この辞書は3キロ以上の重さです。」

日本語の「～以上」という表現は、「～」を含みます。そのため、(1)の日本語の「1問以上」は、4問のうちから1問だけを選んで答えてもよいわけです。しかし、英語の more than ～は、than が「～より」という意味なので、「～」を含みません。そのため、(1)の日本語の more than one は、1問は含まず、「2問以上」という意味になります。したがって、(1)は正しくは次のように訳さなくてはなりません。

- (3) 次の4問のうちから2問以上を選びなさい。

「集合名詞」は 数えられるか？(1)

—team と people の違い—

第3章

● peoples は間違いか？

以前、中学校の英語の先生から、「恥ずかしいんですが、教えてください」と言われ、次のような質問を受けたことがあります。「People は『人々』という意味で、すでに複数なのに、教科書に two peoples という表現があります。People が複数形になっているのは、なぜでしょうか？」というものでした。質問をされた先生が言われる通り、people が、二人以上の人が集まった「人々」という意味であれば、people は、*a people, *two peoples, *three peoples, ... のように、a がついたり、複数形になったりしません。しかし people には、「人々」という意味に加え、「国民、民族」という意味があります。その場合は、people が、ある1つの国の国民や1つの民族という集合体を表わすので、次のように a や one がついたり、複数形になったりします。

- (1) a. The Japanese are **a diligent people**.
- b. We are **one people**, all of us pledging allegiance to the stars and stripes, all of us defending the United States of America. 「私たちは1つになった国民であり、それぞれが星条旗に忠誠を誓い、一人一人がアメリカ合衆国を守るのです。」
(オバマ大統領の2004年民主党大会基調演説の一文)
- c. There are **many peoples** in Asia.

「集合名詞」は 数えられるか？(2)

—集合体のメンバーをどのように数えるか？—

第4章

● 集合体のメンバーはどのように数える？

前章では、たとえば team という集合名詞は、明確な仕切りをもつ1つの集合体を表わすので、a/one team, two teams, three teams, ... のように言えますが、people (人々) は、単に複数の人を意味するだけで、その複数の人が1つに仕切られるのではないので、*a/one people, *two peoples, *three peoples, ... のようには言えないことを示しました。そのため、people (人々) は集合名詞ではなく、複数普通名詞であることを示しました。つまり、前章では、人や物の集合体が、1つ、2つ、3つ、... と数えられるかどうかをもとに、集合名詞とそうでない名詞を区別しました。

さて、次に集合体を数えるのではなく、集合体を構成する個々のメンバーを数える場合について考えてみましょう。集合体の個々のメンバーは、人や動物、物であり、それぞれ単一体を表わしているので数えることができますが、英語ではこれをどのように数えるのでしょうか。この問題は前章でも部分的に少し触れましたが、本章ではこの問題をより詳しく考えてみましょう。

● スポーツチームのメンバーは player

まず、前章でも取り上げた野球のチーム (team) から見ることにし、2つの野球チーム、A チーム、B チームに、それぞれ12人の選手がいるとしましょう (選手を○で示します)。

「集合名詞」と動詞選択

—単数か？ 複数か？—

第5章

● 〈単数呼応〉か〈複数呼応〉か？

次の文の主語は、第3章、第4章で考察した名詞ですが、動詞は〈単数呼応〉と〈複数呼応〉のどちらが用いられるのでしょうか。アメリカ英語とイギリス英語で違いはあるのでしょうか。

- (1) The **police** [is / are] investigating the causes of the accident.
「警察は事故の原因を調べている。」
- (2) My **family** [is / are] pretty open-minded about different kinds of people.
「私の家族は、様々な人々に対して考え方がとても寛容である。」
- (3) The **furniture** in this house [is / are] all my grandfather's.
「この家の家具は、すべて私のおじいさんのものです。」
- (4) The **audience** [was / were] asked to vote by raising their hands. (実例)
「聴衆は、手をあげて投票するよう求められた。」
- (5) The **cattle** [is / are] grazing on the hill.
「家畜は丘の上で草を食べている。」
- (6) Our **staff** [is / are] working hard to improve the

The Red Sox [is / are] playing tonight. は どちらが正しい？

第6章

● スポーツチーム名の動詞選択

アメリカ、メジャーリーグの野球（MLB: Major League Baseball）は、イチローを始め、多くの日本人選手の活躍で、日本でも人気が高まってきました。さて、この野球のチーム名が主語になった場合、動詞は〈単数呼応〉と〈複数呼応〉のどちらになるのでしょうか。次の文は、松坂らの所属するボストンのレッドソックスを応援しているアメリカ人から届いたメールの中のものですが、動詞は is と are のどちらになるのでしょうか。

- (1) Right now, the Red Sox [**is / are**] losing to the Yankees 6 to 0!

「今、レッドソックスは、6対0で（ニューヨーク）ヤンキースに負けている。」

日本では、NBA（National Basketball Association：全米バスケットボール協会）で知られるアメリカのバスケットボールも人気があります。その中の2チーム、マイアミ・ヒート（the Miami Heat）とユタ・ジャズ（the Utah Jazz）についてあるアメリカ人が書いたものが、次の文です。動詞の trounce（...を完全に負かす）は、〈単数呼応〉の trounces と〈複数呼応〉の trounce のどちらになるのでしょうか。

None of us [is / are] ready yet. は どちらを使う？

第7章

● 「none of + 複数 (代) 名詞」は〈単数呼応〉か〈複数呼応〉か？

ある英和辞典に、none ofが複数(代)名詞を伴って次の(1a, b)のように主語になると、動詞は〈単数呼応〉でも〈複数呼応〉でも「最近はほとんど区別なく用いられる」と記されています(『フェイバリット英和辞典』東京書籍、第2版、2001)。

- (1) a. None of these books **was** [were] interesting.
b. None of us **is** [are] ready yet. (表題の文)

None of + 複数(代)名詞:《口語的》では複数扱い、《公式的》では単数扱いとされてきたが、最近はほとんど区別なく用いられる。

(1a, b)の主語名詞句「none of + 複数(代)名詞」の〈主要部〉はnoneです。そしてnoneは、もともとnot one(1つも...ない)、no one(一人も...ない)を表わし、oneは単数形なので、以前は動詞が〈単数呼応〉であるべきだとされました。しかし、none of these books, none of us等では、none ofに続く後ろの名詞句がthese books, usと複数形で、全体としては複数の本や人が対象となっています。そのため、特に話し言葉やくだけた書き言葉で〈複

Neither of them [is/are] coming. はどちらを使う？

第8章

● 「neither of + 複数 (代) 名詞」は〈単数呼応〉か 〈複数呼応〉か？

前章では、「none (of + 複数 (代) 名詞)」が主語になると、現在では動詞が〈複数呼応〉になるのが一般的であることを観察しました。それでは、neither という表現の場合はどうでしょうか。Neither は、形の上では either (one of the two) の否定形で、one を含んでいます。次の文では、is と are のどちらが用いられるでしょうか。

- (1) a. Neither of them [**is / are**] coming.
b. Neither of my parents [**is / are**] interested in classical music.

Quirk et al. (1985) の *A Comprehensive Grammar of the English Language* (Longman, p. 764) には、次のような記述があります。

- (2) (単独使用の) neither/either には、通常、単数動詞が用いられる。

The two guests have arrived, but neither **is** welcome.

Nobody can see themselves directly, can they?

第9章

● はじめに

本章の表題の英文を見て、*themselves* は *themselves* の誤植だと思われる読者が多いことと思います。また、*nobody* は単数名詞のはずなのに、どうして文末に *they* という複数代名詞が現われるのだろう、と不思議に思われる読者があるかもしれません。この表題の英文の *themselves* は誤植ではありません。この単語は、堅いスタイルの公式の書き言葉にはあまり現われませんが、話し言葉では時々耳にする表現で、この単語を非標準的と考えている話し手も多くいますが、この単語を正しい英語の一部と考えている話し手もたくさんいます。本章では、どうしてこのような文が用いられるようになったかを説明したいと思います。

● 付加疑問文

英語には、平叙文（疑問文でも、命令文でも、感嘆文でもない現在・過去・未来形の動詞がついた文）のあとに現われて、平叙文が表わす内容について、聞き手に同意を求める「付加疑問文」という構文パターンがあります。たとえば、次の文を見てください。

- (1) a. John will come, won't he?
b. John won't come, will he?

人は人をどのように呼ぶか？

第10章

● 自分の先生を人に紹介するとき

自分の先生を誰か他の人に紹介するとき、次の (a) と (b) のどちらの表現が用いられるでしょうか。

- (1) a. This is my teacher.
b. This is a teacher of mine.

自分の先生を my teacher と言っても、a teacher of mine と言っても、それが自分の先生であるということには変わりありません。しかし、英語の話し手は (1a) を用い、(1b) を用いる話し手はいません。これは一体なぜでしょうか。

この答えを示す前に、インターネットのグーグルで問題となる表現を調べてみると、次のような頻度数統計が得られました。

表現	頻度数 (割合)
(2) a. my teacher	5,370,000 (99.3%)
b. a teacher of mine	38,800 (0.7%)
(3) a. This is my teacher. (=1a)	725 (100%)
b. This is a teacher of mine. (=1b)	0 (0%)

(2a, b) を見ると、my teacher と a teacher of mine では、my teacherの方が圧倒的に多く、99.3%を占めています。そして、a teacher